

1. 活動報告（事務局 記）

- 10月24日（水）稲こぎを行ないました。乾燥水分16%で若干乾燥が不足でしたが、天気
の都合もあり終わらせました。 会長、両副会長、田村奥さん会員、吉富匡、原田宗と原田マ計
7名と大空さんでした。コンバインは原田宗会員提供でした。
収穫量は粳9カマスで臼引き後は3俵（180kg）と昨年より30kg増し位になると思われ
ます。 合鴨のお陰であろうとの意見がまとまりました。
尚稲藁は乗馬クラブに搬送し代わりに厩肥軽トラ4車（約2.8トン）頂き田んぼに頒布しました。
（撒布は追って行ないます） 来年の鋤き込み用菜種の種蒔きも行ないました。
- 10月27日（土）7時より原田副会長と善和 末永さん方にて臼挽きをし、もち米178kg
収穫しました。 ちなみに平成16年158kg、17年201kg、18年150kgと17年度ほ
どの収穫はなかったものの約3俵で豊作といえます。
- 11月3日（土）蕎麦の刈り取りとすずめの巢干しを行ないました。
また蓮田の中のおオフサモや雑草の抜き取りを行ないました。
参加者は会員15名 里山自然観察隊4名及び保護者会員3名 計22名でした。
- 11月10日（土）午前の作業は会員14名の参加でした。
①蕎麦の手こぎは終了してあと乾燥、選別、粉挽きのため事務局に持ち帰りました。
②11日と13日に来客があるため池ゾーンの橋の修復、湿地帯観察橋の修復を行ないました。
③竹炭の補充を池と草原の川に行ないました。
- 11月10日（土）里山自然観察隊「里山の暮らし」
①竹細工（竹とんぼづくり、竹笛づくり、竹馬づくり）
②藁細工（わら縄体験、しめ縄づくり）
隊員10名 保護者会員6名 指導者会員7名でした。
- 11月11日（日）山口県宇部健康福祉センター主催「水と里山探検ツアー」御一行 18名
＋主催者5名を当会会長、原田副会長、西原、北村両会員と原田マで昭和山遊ロードを含むビオ
トープをご案内いたしました。
- 11月13日（火）宇部市環境共生課主催「グローバル500受賞記念行事」の来客者約30
名ほか主催者環境共生課案内担当4名のビオトープ見学ご案内を致しました。
今井会長、原田賢、田村両副会長、西原、吉本、吉富匡、原田マでご案内しました。会長による
ビオトープの位置づけ説明の後意見交換会の予定でしたが、時間的な都合により個人的な質疑応
答となりました。
- 11月22日（木）JA山口嘉川にてもち米の精米を行ないました。原田賢、原田マ

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

日付未定 青年会議所環境学習 100名程度遊ロードからビオトープ

◎ 行事

- 11月30日（金）餅つき準備
- 12月1日（土）収穫祭 Part-1 餅つき
- 12月15日（土）収穫祭 Part-2 蕎麦打ち、里山自然観察隊閉講式
- 12月22日又は23日収穫祭 Part-3として蓮根堀、くわい堀、11時頃から忘年会を致します。

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月はありません

4. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

紅葉するウルシの仲間

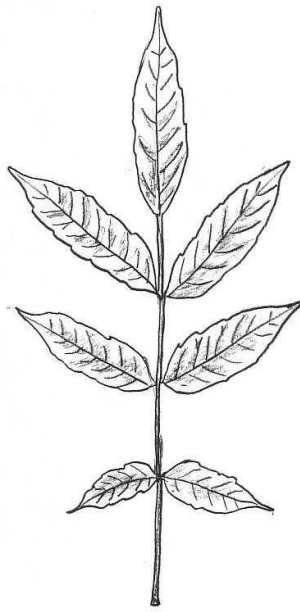
秋も深まり、山は紅葉の季節を迎えました。紅葉といえばカエデですが、その前にいち早く赤く色づく木、それがウルシの仲間です。

ヤマハゼは、一見したところ、ハゼノキと区別が付き難いので、一般的には「ハゼノキ」と呼ばれていますが、ハゼノキとは別種です。ヤマハゼが日本古来の自生種であるのに対し、ハゼノキは天正19年（1591）、木蠟原料として琉球王国から持ち込まれ、広がって今は各地で自生するようになりました。ハゼノキが別名リュウキュウハゼとも呼ばれるのはこのためです。葉が奇数羽状複葉で形もよく似ていますが、違いは、ヤマハゼが葉軸は赤味を帯びることが多く、葉軸、葉裏ともに毛が密生しているのに対し、ハゼノキは無毛でツルツルしていることです。この違いは、遠くから見たのではわからず、触らないと確かめようがないのですが、かぶれる心配から積極的に触る人もなく、「ハゼノキ」と通称で済まされているのでしょう。須賀河内川沿いは、確かめた範囲ではこのヤマハゼの木がほとんどでした。ハゼノキが移入される前は、このヤマハゼの果実から木蠟を取っていたのですが、ハゼノキの移入後は用済みになってしまい、ハゼという名前も取られて、ヤマハゼと言われるようになったというちょっと物悲しいストーリーの持ち主です。

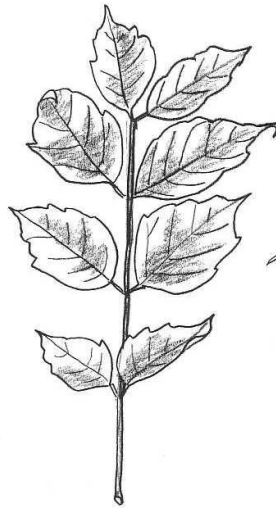
ヤマウルシは、ハゼノキと違って小葉の形が丸く、側脈の数は少なく、幼木では粗い鋸歯があります。葉の表面は両面に毛が多く、さわるとピロロド感覚があります。果実はハゼノキが扁平なのに対し、形が球形に近く、表面には刺毛（しもう）という棘があります。ヤマウルシには、漆塗りに使うウルシオール含有量は少なく、昔はヤマハゼと同様ハゼと呼ばれて、果実から木蠟を取っていたようです。果実に毒性がほとんど無く、脂肪分が多いことで、野鳥の重要な食料です。中に入っている種子は非常に硬いので消化されることはなく、鳥によって散布されます。ウルシ科の樹木はどれも典型的な陽樹で、種子の寿命が長く、林が伐採されると休眠していた種子がいつせいに芽を吹きます。伐採地や林縁の道路沿いにこれらの木が多いのはそういう理由によります。

ヌルデは、小葉の葉軸に明瞭な翼があるのでハゼの仲間と区別は容易です。雌雄異株で、通常は樹高5～6mほどの小高木です。ヌルデの利用は何といてもその虫こぶから作られるタンニンです。この虫こぶはヌルデミミフシとって、ヌルデの葉に「ヌルデシロアブラムシ」が寄生することによりできます。この「五倍子」と呼ばれる虫こぶにはタンニンが50%も含まれ、昔はお歯黒の原料になっていました。お歯黒の習慣がなくなった後も、古くから黒染用として用いられている伝統的な天然染料「五倍子染（ふしぞめ）」は今も生活の中に息づいています。ヌルデの果実は直径約4mmの扁球形の核果で、熟すと果実の表面に白い粉を吹きますが、これはリンゴ酸カルシウムの結晶で、口に含むと塩味が感じられます。

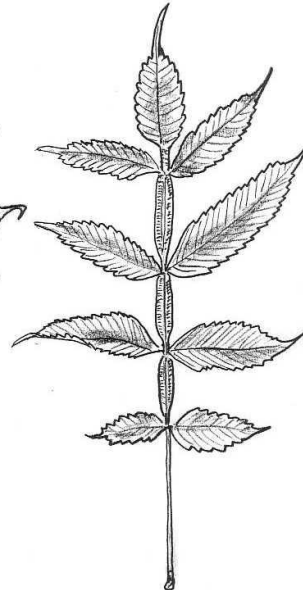
ウルシ科の植物は、樹液中にかぶれの原因となるウルシオールを多かれ少なかれ持っているのかぶれやすい人は要注意です。ヌルデはまず大丈夫ですが、ハゼ類やヤマウルシ、特に注意が必要なのはツル植物で地面を這っていることもあるツタウルシです。秋は樹液が少ないので紅葉を手にとったくらいでは大丈夫ですが、春から夏は気をつけましょう。



ヤマハゼ (ウルシ科)



ヤマウルシ (ウルシ科)



ヌルデ (ウルシ科)

5. 会員の声

今回もありません。

6. 里山自然観察隊 (11月10日、隊員10名、保護者6名、会員7名)

里山の暮らし

①竹細工 (竹とんぼづくり、竹笛づくり、竹馬づくり)

②藁細工 (わら縄体験、しめ縄づくり) 隊員だけで無くお母さん、お父さん会員もワラの縄をなう事が出来ませんでした。

久しぶりに竹馬づくりをやりました。子供達は乗るのに苦労していました。

(西原 一誠 記)

7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

・11月17日・18日二俣瀬校区文化祭がありました。当里山ビオトープから農産品評会に収穫品

①もち米 ②椎茸 ③蕎麦を提出しまして、もち米は2等賞 蕎麦は3等賞を頂きました。

皆さまの生産努力が実りました。尚賞金は会費に納入します。

・12月1日の収穫祭には、宇部市長も参加したいとお言葉でした。ぜひ賑々しくご参加ください

8. 編集後記

実りの秋、餅米、蕎麦を収穫。どちらも豊作。今年アイガモ農法での稲作に挑戦。するとアイガモの前にカルガモがチャボ親に抱かれ育てられ単立ち自然に帰って行きました。又アイガモは原田さんを親として育てられそれから多くの人の手で。活躍しないといけない時は過保護過ぎてハングリーでなかったのか、余り本気で仕事をやってくれなかったようです。その間にはいろいろな自然の厳しさ等を目の前に見せられ学ばされ楽しませてくれた鳥達でした。又来年は二世と共にアイガモ農法での無農薬米を。飼育にあたられた皆様本当にご苦労様でした。ありがとうございました。

(松本 フデコ 記)